

## 4 重点施策・取組

### (1) 水田農業を継続的に維持できる担い手の育成

#### 【目指す姿】

- ・実質化された人・農地プランが作成され、意欲ある経営体が規模を拡大し、効率的な営農を展開している。
- ・集落営農により、集落の農地が継続的に維持されている。
- ・多様な経営体により、主食用米や飼料用米を中心とした転作作物の生産が行われ、水田が有効に活用されている。
- ・スマート技術が導入され、省力的な水田営農が行われている。
- ・担い手の効率的な営農をするための、水田の再整備、農道の改修、用排水路の整備が行われている。

#### 【現状と課題】

- ・印旛地域の11,000haの水田は、一部の大規模経営体と家族労力による個別経営体が担っていますが、高齢化による担い手不足が進んでいます。水田を継続的に維持するためには、規模拡大志向にある「中規模の個別経営体」を、概ね20～30ha規模の安定した経営体へ誘導していくことが必要です。
- ・一部の経営体は50ha超規模の「大規模法人経営体」へ誘導するとともに、集落営農組織の育成を併せて進めていく必要があります。
- ・飼料用米やWCSの導入が進み、ドローンや水田水位センサー、自動操舵農機等のスマート技術も一部で導入されてきていますが、水田経営の安定にむけて更なる導入が不可欠です。
- ・ほ場整備率は62%と小区画な湿田が多く、用水施設の老朽化も進んでいます。担い手への農地集積、集約に併せて、大区画化、農道の拡張、パイプラインの整備が必要です。
- ・スクミリングガイ（ジャンボタニシ）や、イネカメムシなどの大型カメムシ、繁殖力の強いナガエツルノゲイトウ、外来アサガオや雑草イネの被害が広がっており、対策が急務となっています。

#### 【数値目標】

##### 水田の経営耕地規模25ha以上の経営体数※

現状 28経営体(R3) → 目標 41経営体(R7)

※ 千葉県印旛農業事務所調べ。  
毎年3経営体程度の育成を目指す

##### 人・農地プランの作成件数※

現状 14(R2) → 目標 59(R7)

※令和7年度までに45地区の増加を目指す

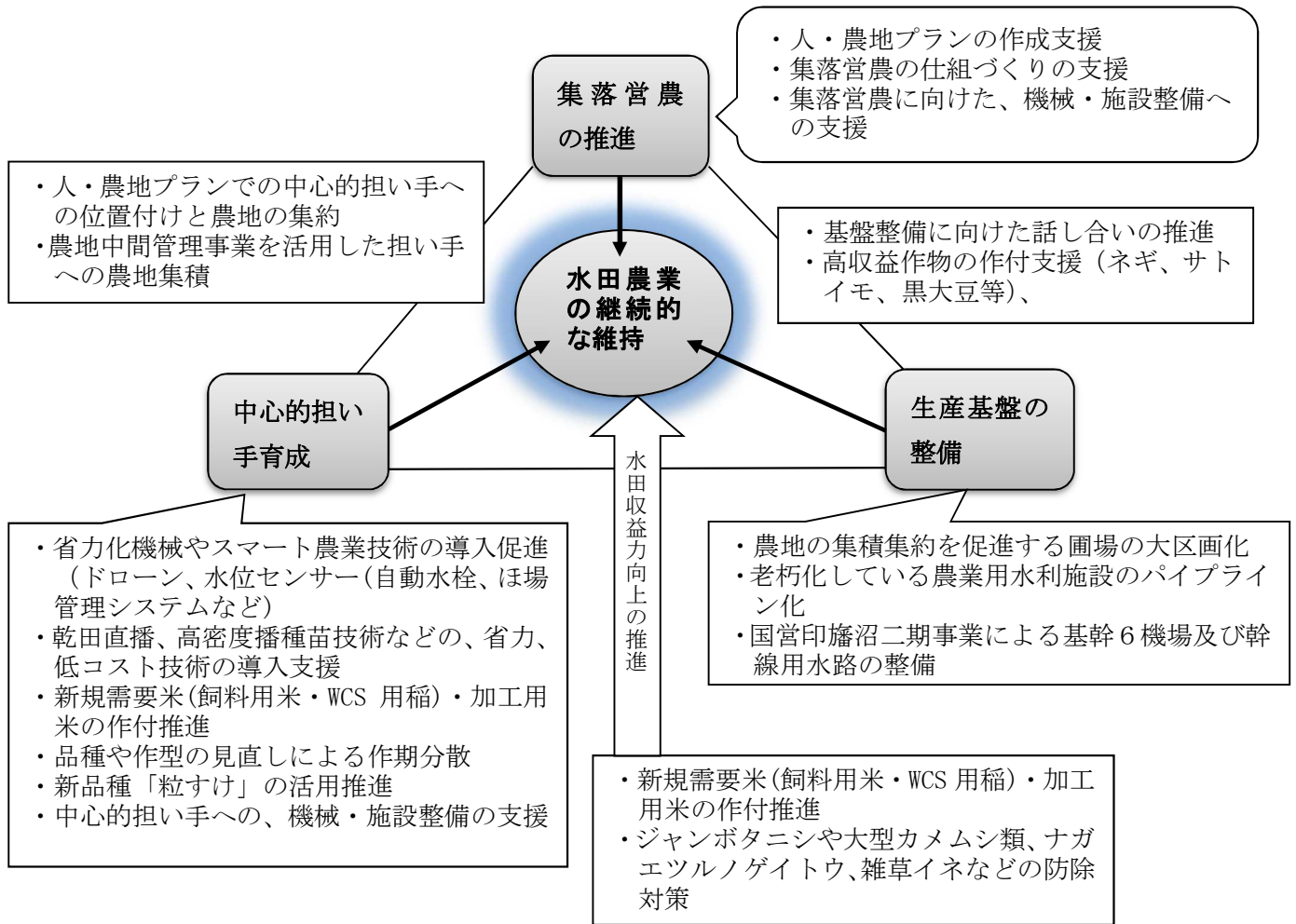
##### 区画整理実施面積※

現状 5,716ha(R3) → 目標 5,756ha(R7)

※ 千葉県印旛農業事務所調べ

【主な取組】

地域での話し合いを核として、「中心的担い手育成」、「集落営農の推進」、「生産基盤の整備」を進め、水田農業の継続的な維持を進めます。



【主な対象地区】

成田市、佐倉市、四街道市、印西市、白井市、酒々井町、栄町

## (2) 北総台地に広がる野菜産地の安定的・持続的な発展

### 【目指す姿】

- ・経営規模の拡大に加え、新たな担い手が確保されることにより、主要品目の作付面積が維持される。
- ・地域の核となる集出荷貯蔵施設が整備され、出荷調製作業の効率化が図られている。
- ・低コスト耐候性ハウスや省力化機械等が導入され、安定的・効率的な生産が行われている。
- ・国営北総中央用水が効果的に活用され、農業生産が安定的に行われている。
- ・適切な輪作が実施されるとともに、難防除病害虫の対策が確立され、安定的で持続的な生産が実施されている。

### 【現状と課題】

- ・北総台地の畑作地域はニンジン、スイカ、トマト、サツマイモ等全国でも有数の産地となっていますが、今後も市場での確固たる地位の堅持、実需者ニーズに対応できる産地を維持するためには、産地の担い手の確保と経営規模の拡大を図っていく必要があります。
- ・産地の維持、振興に向け、優れた経営者の育成、共同利用施設や省力化技術、省力化機械の導入、整備が必要です。
- ・経営を不安定化している夏期の高温や台風、局地的大雨等の気候変動、難防除病害虫への対応や、収入保険制度等への加入促進が不可欠です。

### 【数値目標】

#### 主要生産組織の野菜販売金額

現状 163億円(H28~R2の5中3平均) → 目標 190億円(R7)

※管内5JA園芸分実績値(千葉県印旛農業事務所調べ)

現状から17%の増(千葉県農林業振興計画)

### 【主な取組】

- ・担い手の確保  
若手農業者に対するセミナーや研修の実施により、農業への定着を図るとともに、栽培技術の指導による品質向上を図ります。  
農業青年クラブの活動を支援し、地域農業を担う優れた経営者、リーダーを育成します。
- ・経営面積の拡大  
経営拡大志向のある経営体を人・農地プランの中心的経営体に位置付け、農地の集積を図るとともに、北総四大用水を有効活用して安定した生産に取り組みます。

広域集出荷施設の設置や、既設の集出荷施設の機能強化を図るなど、集出荷体制の整備を進めます。

#### 【品目別取組】

サツマイモ：周年出荷体制の強化

担い手の規模拡大に向け、省力化や雇用導入  
輪作体系の確立や地力維持のための土壌管理の改善  
つる割れ病、基腐病、センチュウ等の病虫害防除対策  
産地の課題や今後の方向性を検討し、産地振興計画(仮称)の策定

ヤマトイモ：省力化機械の導入や作業環境改善に在る担い手の規模拡大

収量・品質の向上に向けて、新たな施肥体系の検討や緑肥・堆肥の  
導入による土づくり  
新規栽培者の受入体制づくりによる担い手確保  
複合品目である落花生の省力化

トマト：高温期の安定対策技術の導入

重要病虫害（黄化葉巻病、黄化えそ病、青枯病、葉かび病、すすか  
び病）対策

スイカ：高温期の品質向上対策

省力栽培技術の導入  
急性萎凋症、うどんこ病対策  
次世代のスイカ産地を担う若手生産者の育成省力化と安定生産

ニンジン：連作障害対策による安定生産

緑肥、落花生などとの輪作体系の検討と導入

落花生：輪作による収量・品質の向上

作業機械の導入による省力化  
生産体制の整備による優良種子生産

#### 【対象者】

J Aかとり農協、J A成田市農協、J A千葉みらい、J A富里

#### 【主な対象地区】

成田市、佐倉市、八街市、富里市

### (3) 災害に強い森林づくり

#### 【目指す姿】

- ・インフラ施設周辺等の風倒木対策を含め、適切な森林整備の推進により、災害に強い健全な森林づくりが着実に進んでいる。

#### 【現状と課題】

- ・気象害や森林病虫害等の被害を受けた森林の再生及び市町道等のインフラ施設周辺森林における被害の軽減や未然防止が令和元年房総半島台風等を契機に求められている。

#### 【数値目標】

風倒被害森林の整備面積※

現状 2ha/年(R2) → 目標 2ha/年(R7)

※ 千葉県北部林業事務所調べ

#### 【主な取組】

- ・令和元年房総半島台風等による風倒被害森林の再生や、市町道等のインフラ施設周辺森林における被害の未然防止につながる森林整備への支援を行います。

#### 【主な対象地区】

- ・成田市、佐倉市、四街道市、八街市、富里市、酒々井町



市町道等のインフラ施設周辺森林の整備(伐採・植栽)